

ソーシャルベンチャーを目指して ーPBL型アクティブラーニングからー

浜松学院大学

現代コミュニケーション学部

地域共創学科2年 山本 逸斗

子どもコミュニケーション学科1年 渥美 三四朗

1 背景

浜松市は、都市部は輸送用機器・楽器・繊維の産業を基盤としたグローバル企業が集積しており、北部は広大な森林を抱える豊かな自然の山間部が広がり、そこには独自の伝統文化が受け継がれている。豊かな資源を有する産業都市として発展してきた浜松市であるが、一方それに伴う大きな課題を抱えている。一つは、中山間地域の課題である。浜松市の北部に位置する北遠地域では、浜松市全域の65%の面積を占めるにも関わらず、人口は4%に過ぎず、高齢化や少子化による中山間地域の人口現象により、経済活動の低迷や担い手不足による耕作放棄地の増大、森林の荒廃、数百年もの間人々によって継承されてきた、民俗芸能の衰退、さらには集落機能の低下など、地域社会の基盤を脆弱化させるなど多くの課題に直面している。もう一つは、都市部に居住する海外につながる子どもの課題である。1990年の改正入管難民法により、浜松市には多くの日系人労働者が流入した。義務教育年齢期の子どもを帯同する者も多く、市内公立小学校・中学校に在籍するようになった。特に、ここ数年、日系フィリピンの子どもの急増しており、海外につながる子どもの中には、公立学校において主体的・積極的に学習活動に参加できず、学校文化に適應できない子どもも多くいる。

2 発表の目的

長期学外学修プログラムを履修した学生が中心となり、令和元年度市民団体である「わたぼうしグランドデザイン」を設立した。長期学外学修プログラムのフィールドスタディにおける協働学習を通して、大学生自らで地域の課題を創造的で独創的な活動へと深化させ、継続・発展させている。また、組織としては大学と連携しながら、「わたぼうしグランドデザイン」は新たな履修者を受け入れる体制や環境を創出し、事業を継続・発展を可能にする循環型のモデルを構築してきた。本発表では、「わたぼうしグランドデザイン」の多様な活動を紹介する。

(1) 市内 都市部の課題

ICT海外協働学習（浜松市内在中フィリピンの子どものとフィリピン共和国ダバオ市内公立学校の子どもとのデジタルアートを中心とした協働学習）

フェアトレード（フィリピン共和国ダバオ市内中山間地域の公立学校に所属する子どもの家族支援）

(2) 市内 中山間地域の課題

中山間地域の伝統芸能の継承プロジェクト（集落で伝承されてきた芸能の継承）

中山間地域の空家の再建ツアー（古民家を再建ツアーの企画・実施）

(3) 浜松市都市部と中山間地域をつなぐプロジェクト（市内都市部で、多文化共生社会と中山間地域の理解を目的に、シンポジウム、イベント、市民マーケットの運営及び参加）

3 今後について

わたぼうしグランドデザインでは、社会貢献を目的とした奉仕活動ではなく、継続的な組織運営を求め、社会の課題解決を目的とした事業性の高い活動を展開することを目指している。地域課題に向き合う大学生のニーズの受け皿になり、共に地方創生に貢献するプラットフォームを構築する。